

平成27年度

公益財団法人新宿未来創造財団第3回評議員会

議事録（参考資料）

平成27年12月10日

○高橋議長 それでは、これより議事に入ります。

議案第18号 平成27年度上半期事業執行状況及び資金運用業務状況報告についてを議題に供させていただきます。

事務局に説明をお願いいたします。

(資料に基づく説明省略)

○高橋議長 全般的に、時間が非常に少ないですから、簡潔に説明いただけませんか。

○小柳事務局長 はい、分かりました。

(資料に基づく説明省略)

○高橋議長 ありがとうございます。

それでは、今の説明、ここに配られた資料につきまして、それから日頃皆さん方が事業の運営について感じておられることを何でも結構でございますからご質疑をいただきたいと思います。時間の都合もありますので、一括してご質疑をいただきたいと思えます。ご発言のある方、よろしく願いいたします。

順を問わずに、前後左右関係なくご意見をいただければと思いますけれども、よろしく願いいたします。

今、事務局長の説明で、財団として、これはよかったなと思うようなことを報告いただきたいと思います。また、反省点などありましたらお願いします。

○小柳事務局長 今、反省点ということでございます。

確かに、私どもの事業では、指数としまして目標を定めております。その中で十分に達成したものとそうでないものとございます。感じておりますのは、やはり十分に周知活動が実施できたのかどうかを含めまして、いろいろな試みはしています。

その辺は多々反省するところはあるかと思っております。

例えば歴博の事業では、紀伊國屋書店との協働とか、いろいろな工夫はしていますが、文化センターの事業は目標に達成できなかつたりしております。今後十分に検討

しまして、次の機会には、欠点を少なくする、一切ありませんと、ご報告できようになりたいと思います。

○高橋議長 分かりました。いかがでしょうか。反省点としては周知活動だそうです。

評議員の皆さん方も今日報告のなかった事業全体についても、日頃感じられることあると思いますので、自由にご発言いただければと思います。

○谷頭評議員 今、周知活動ということがありました。

私は生涯学習フェスティバルに少し関わりました、今年初めてダウン症のような方が参加して下さるようなイベントを開催したのですが、周知が行き届いてなかったのか、余り参加されていなかったようです。私も参加したのですが、それほどでもなかったということがありました。

ただ、今日のご報告の中では非常にいろいろな部分で努力して新しい試みをしていらっしゃると感じられました。文化センターなどに行く機会が多いので、利用方法とか、使用方法にも新しい発見が私なりにありました。コンサートもたびたびやっていらして、人がその場所に行く機会が増えれば併せて周知もできるのではないかなと思います。なるべく人集めの方に努力されるといいと思います。

○小柳事務局長 ありがとうございます。

いわゆるマスメディアといいたまいますか、そういった媒体を活用した周知だけではなく、そこに参加いただいた方、地域の方々とか、もっと地に足をつけた周知活動も尽くしてまいりたいと思っています。せっかくいろいろな意味で企画を工夫したり努力したりしておりますので、ぜひ皆様方に一緒に感動、参加していただく努力をしてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○高橋議長 PRというものは本当に難しいものですよね。財団の広報紙はよくできていて、原評議員からもお褒めをいただいたことがあったかと思います。本当によくできていますが、それだけではやはり足りないのでしょうか。

インターネットの周知活動などは大体思うようにいっているのですか。

○高橋管理担当事務局次長 インターネットによる周知でございますが、周知にも力を入れているところでございます。ご覧いただきますとホームページを1年ほど前にリニューアルいたしました。ただ、やはり当財団の事業数が非常に多いということ、また多くの施設を管理していることで、掲載する情報量が多い中、それをどう効果的に伝えていくのかという点にまだまだ課題があると思っています。今後も引き続き、どういう周知方法があるのか、どこをターゲットにしていくのか研究をしてみたいと思います。何かお気づきの点等ありましたらぜひご指導いただければと思っております。

○原評議員 私が籍を置いている大学では、若い教員が何か少しでも会話の中で分からないことがあるとすぐインターネットで調べるのです。私は70代前半ですがけれども、私の感覚の中には、そういう発想がありません。私の家の近所も若い人はほとんどいなくて、昔からの年配の人たちがずっと暮らしているのです。皆さんやはり見るのは紙が多いです。だから広報紙を見る、読むことが多いのではないのでしょうか。ただ、紙面がきれいになっているのですが、これ以上増やすと見切れないという感じのところまで来ているかなと思っております。

それから、ミッテ区への派遣について、12人とかなり多い人数を派遣して、職員が2人付いて14人というお話がございました。ではミッテ区の青少年の受け入れですが、もし向こうの人たちが来たときはどんなことを、何泊ぐらいで来て、どのようなことをするのでしょうか。

○下杉事業担当事務局次長 ミッテ区につきましては、こちらから派遣をする年度、そして向こうから、隔年で交流をしてございます。やはり規模は同程度の人数を受け入れまして、今年度のこちらでの滞在期間は11日間ぐらいを予定をしています。たまたまミッテ区のイースターというお休みの関係で、今年度の末、3月の終わりから4月の頭にかけて訪問をされる予定になっています。まだ日程等細かいところはこれから詰めていきます。

そして、内容のプログラムとしましては、新宿区への訪問、いわゆる日本を知ってもらおうということ、それと、日本の田舎にも行ってみたいということで、1泊ほど田舎に行くプログラムも用意しております。

同時に、ホームステイを新宿の区民の方をお願いをしまして、これが3泊4日程

度になります。そのほか環境について学ぶプログラムと新宿区長の訪問など、かなり盛りだくさんではありますが、ドイツのミッテ区と調整をしながら進めていこうと考えてございます。

○原評議員 ありがとうございます。

○高橋管理担当事務局次長 先ほど前段でご指摘いただきました広報紙について、改めてお答えさせていただきたいと思います。

ご指摘いただいたとおり、当財団では非常に多くの年代の方を対象とした事業をしております。その中では先ほど申し上げたようなホームページ等の充実も必要ではあるのですが、やはり一方で紙媒体、これについても非常に重視をしていくことが必要であろうと考えております。ご指摘いただいたとおり、限られた紙面の中で、できるだけ多くの情報を入れようとする余り、少し見づらくなっている部分もあろうかと思っておりますので、見直しをして、より伝えやすい、情報が伝わりやすい紙面をつくっていきたいと思っております。

実は来年1月20号で予定しているのですが、当財団の理事をお務めいただいている宇佐美彰朗さん、それから新宿シティハーフマラソンでスペシャルゲストをお務めいただく君原健二さん、二人ともマラソン競技で、3大会連続でオリンピックに出場された大変著名な方々です。お二人と区長との対談記事を企画しています。読み物としてもおもしろい紙面をつくって、皆様方に興味を持っていただき、その上で当財団の事業についても知っていただくことも今後進めてまいります。より一層、周知の能力を高めたいと考えておりますので、またお気づきの点がありましたらぜひご指導いただければと思います。

○小菅評議員 区民が多様化する中で、これだけの事業をきちんと領域に分けて、事業ごとに系統的に分けて事業を提供しているということについて改めて感謝いたします。

各課長を中心にして、整理統合が大変だろうと思います。予算が絞られているということで、大変苦戦しているということも聞いております。

課長の心境、余りあるところですが、その中で、これだけ前半、区民の要望に応えていただいたことに改めて御礼申し上げるとともに、指定管理者制度の利点を巧み

に使い、制度のいい面を、表面に出している感じがいたします。私の短い行政体験から言うと、行政だけの力ではこれだけのことは展開できないと思います。改めて、多様な学習、文化、スポーツ、芸術、観光等、大変だと思います。

そこで、2点ばかりお尋ねしますが、1点目は、シティハーフマラソンは、現在までの課題について見通しはいかがでしょうか。大変会場がやりにくいようなことも聞いておりますし、前年度のお話を生かした場合の風評等も含めて、どういう対応をしているのかということをお聞きしたいと思います。

もう1点は、第2号事業です。第九演奏会にご招待を受け感動してきました。大変素晴らしかったのですが、今回、観客が例年より少し減ったかなという感じがする。何か事前に観客数を絞ったのか、あるいはそういう状況になっているのでしょうか。

○高橋議長 お願いします。マラソン課長から。

○青木マラソン課長 前回大会、既に委員の皆様には課題ということでご報告したとおりでありますが、ランナーと歩行者の方が接触をしてしまったということがございます。それ以外でも、警視庁、所轄警察などから、課題をいただいています。やはり安全・安心して、運営ができるような大会を、ということでございます。

これまで主要な交差点等で、ランナーが通過する中、集団と集団の切れ目を縫って歩行者を向こう側に渡すという役を職員、ボランティアが行っていました。ここにいろいろな大規模イベントで慣れている専門誘導員、警備員を配置することにいたしまして、既に準備をしているところでございます。また、最近ランナーも多様化してまして、一部でございますが、コースをはみ出すような方もいます。そうしますと、車両の接触とか、あってはならないことですので、そこを抑制するためにコーンとバーを全ての外周コースに設置するところでございます。

さらに医療体制も前回大会の6名から10名とする方向です。前は少し周回方法が分かりにくいということがございましたので、今回大会から主催に東京陸上競技協会にご協力いただき、周回方法を見直して、誰でもが分かりやすいコース設定をするところでございます。

これらを中心に現在12月ということですので、いよいよ仕上げということで、運営体制を準備しているところでございます。

○小菅評議員 ありがとうございます。第九演奏会の件をお願いします。

○諏訪事務局次長 ご指摘をいただきましたとおり、今年度は確かに文化センターの事業について、周知が行き届いていないということで、観客数が伸び悩んでいるという点がございませう。一応、新聞ですとか、関係の雑誌ですとか、周知はかけております。広報紙以外に、メールマガジンでも周知を入れているのですが、なかなか伸びないということで、課の中でも検討材料となっております。やはり、新宿文化センターの方向性というのか、脈絡が出てないのではないかといいご指摘も受けております。昔はクラシックコンサートで催しが固まっておりましたので、この間の第九演奏会も大変上手だったと私も思いました。とってもしっかりないなかつたなと私自身反省しているところではございませう。

今後、ある程度筋道をつくって、新宿文化センターでは主催事業としてこういうものが聴けるということをもう一度区民の皆さんに分かっていただくような活動をしていきたいと思っております。一度壊れてしまったものを立て直すというのは大変難しいだろうと自覚をしております。しかし数年かけましても、これはこの時期に文化センターで聴くという形を取り戻し、区民の皆さんにとって身近な音楽ホール、演劇ホールである文化センターをつくっていききたいと思っております。

また、周知の方法につきましても、今までと同じやり方では効果が上がっていないというのでは承知としております。今後どのような形で周知をすればいいのか少し時間をかけまして検討していきたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

○小菅評議員 ありがとうございます。

○高橋議長 ほかにいかがでしょうか。

○谷頭評議員 ミツテ区の学生さんたちが来たときにお話があったのですが、あちらでは今、日本のブームが起きているようではございませう。私たちの団体からも着物を着ていただいたり、茶道体験に協力させていただいております。新宿にいらしたときにもご希望があれば協力させていただきます。

○高橋議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○大和評議員 文化センターができて30数年とのこと。その間、社会の激変や周りの環境が大きく変わっていますので、近隣のホールの環境も変わってきています。第九演奏会についても、日本全国でなぜこれほどまでに流行っているのだろうというぐらい公演されています。やはりそれでは注目度が下がってしまいます。そういう意味で、お客さんの公演内容の趣味、感覚も変わってきています。過去の遺産にとらわれることなく、いろいろなブームは必要ですけれども、ひとつ大きな方向性を打ち出さないとうまくいかないのではと思います。

○高橋議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○原評議員 放課後子どもひろばについてです。区内小学校19校、9月末実績と書いてあります。私ども新宿の区民の理解としては、新宿コズミックセンターが区の指定管理施設であるということは今日もお話を聞いて十分分かったのですが、そうは考えていないのです。新宿コズミックセンターがやっていることは新宿区がやっていることと考えているのです。区でやっている事業は絶対安全だから、放課後子どもひろばに預けておくと親は安心だと思って活用していただけるのではないのでしょうか。今、放課後子どもひろばをやっていない学校はどうして実施していないのですか。

○岡田子ども支援課長 新宿区の公立小学校では、今全校で実施をしております。その中で、財団として、新宿区から受託をされているものが19校ということになっています。

○原評議員 そういう意味ですか。分かりました。

○高橋管理担当事務局次長 ご指摘のとおり、非常にこの子どもの安全・安心の見守りということで重要な事業であると、当財団でも認識しているところでございます。今、子

ども支援課長からも申しあげましたとおり、新宿区からの受託事業ということで、区でもこの部分に非常に力を入れて取り組んでいるものと認識しています。

その中で、当財団は新宿区の外郭団体ということで、強い連携を持つことができるので、19校、多くの学校を受託しているところでございます。この運営に当たりましては、日常的に、区の子ども総合センターが所管をしておりますが、この所管と十分に連絡を取り、また現場からも声を吸い上げて、さまざまな改善等を行ってきているところでございます。今後も引き続き、力を入れて取り組みながら、安全・安心な場として、さらに活躍していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○古川評議員 事業の概要を見ますと、9月末で終わったのが合計で32事業のようです。熱心に進んでいられると感じました。皆さんいろいろご苦労されているなと思いました。

マラソンの件で、今度、君原健二さんと宇佐美彰朗さんと区長の対談の話がありましたが、確かに君原さんと宇佐美さんは、70歳前後ぐらいで、マラソン界では重鎮です。皆さん、すごいなと思いますが、今の時代は40歳、50歳代を見ると、やっぱり高橋尚子さん、瀬古利彦さんあたり、若い人向けの企画といいますか、考えを少し持っていただければと思います。

○高橋議長 そうですね。いかがですか。若い人を。
どうぞ。

○小柳事務局長 ご指摘いただきましたように、重鎮をお願いしてまいりました。宇佐美彰朗さんは新宿シティハーフマラソン実行委員会の委員長、君原健二さんは実際にゲストランナーとしてお招きしている関係で今回このような企画があったということでございます。今後、多方面にわたっていろいろな方々にこの新宿区シティハーフマラソンにも関わっていただきたいと思っています。その辺は、すぐに次にどうだということはなかなか難しいですけど、多方面を見ながら、広い世代間にわたり十分に皆さん参加できるような、企画にしていきたいと思います。ただ、現実的には、それぞれの選手は、それぞれの大会と関わっているところもございまして、なかなか難しい面もございまして、努力してまいりたいと思っています。

○高橋議長 ほかにいかがでしょうか。

私からも発言します。公平の意味を込めて、先ほど文化センターの第九演奏会が非常に良かったのにお客さんが少なくてもったいないじゃないかという話がありましたが、新宿歴史博物館も、職員は一生懸命に頑張っている企画展示をしていると思うのです。あの努力について、来館者数等について満足しているのですか。

○林学芸担当参事役（新宿歴史博物館館長） まだまだ満足できるものではありません。なぜかと言いますと、地域に出ていかないと、それから地域の歴史をきちんと残してくることが一番これから歴博には大切なことだろうと思っています。

○高橋議長 地域に口コミでもっと宣伝するということですかね。

分かりました。ほかにいかがでしょうか。

夏目漱石関連記念事業の方はどうですか、

○橋本評議員 まだまだです。これからですね。

○高橋議長 よろしいですか。ご発言がなければ、質疑を終了したいと思います。

議案第18号 平成27年度上半期事業執行状況及び資金運用業務状況報告について、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○高橋議長 ありがとうございます。

では、異議なしということで、議案第18号を原案どおり決定をいたします。

○高橋議長 次に、議案第19号の平成27年度事業計画及び収支予算の補正について議題に供します。

事務局の説明をお願いします。

(資料に基づく説明省略)

○高橋議長 ありがとうございました。

ただいまの議案第19号について、ご質疑ある方はご発言をお願いします。

はい、お願いします。

○小菅評議員 新宿シティハーフマラソンについて、ある方から寄附をいただいたということは大変素晴らしいことだと思います。1点目は、こういう前例が過去にあったのかどうか教えてください。

2点目は、寄附があったことを、区民に何か周知するのでしょうか。こういうことがあったということについて、多分ほとんどの方は知らないと思います。

3点目は、寄附者に対して、財団として顕彰のようなものがあるのかどうか、教えてください。賛同する人がたくさんいると思います。

○高橋議長 お願いします。

○高橋管理担当事務局次長 まず、これまでこういった事例があったかということですが、マラソン大会につきましては、今回初めての事例となっております。ただし、財団全体で見ますと、今年度の事業計画の第1号事業の7番目の事業として載せておりますが、林芙美子の姪御様でいらっしゃる林福江様、この方から以前ご寄附をいただきまして、これを事業費に充てて事業を行っているといった実績がございます。

今回のマラソンへの寄附は、お申し出をいただいたということで、これは今後も引き続きこういったことは確かにご賛同される方がいらしていただければ大変ありがたいので、その部分については、今後力を入れていきたいと考えております。

○小柳事務局長 補足でございます。

実際には、マラソンに関しまして、協賛金という形で、直接新宿シティハーフマラソンの実行委員会にご賛同いただいて、寄附もいただいております。これにつきましては、当日のプログラム等に掲載させていただくものです。今回の寄附者様のような申し出につきましては、ここに記載しておりますが、やはり直接実行委員会ではなく、当財団に

ということもおっしゃっていただく場合もございます。このような寄附の申し出も実際これからまた可能性がございますので、それにつきましても、同じようにこのような形で処理させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○高橋議長 顕彰はするのですか。

○小柳事務局長 これにつきましては、ホームページ等で公表させていただきたいと思っております。

○高橋議長 よろしいですか。

○小菅評議員 顕彰は特にないのですね。

○諏訪事務局次長 先ほど申し上げました、林福江様には、感謝状を出しておりますので、前例に則ってそのような対応をとることが可能かと思っております。

それから、財団の紹介パンフレットがございまして、こちらの中で大々的にはないですけれども、財団にご寄附をいただいた場合、税制上の優遇措置があることを周知はさせていただいております。

○高橋議長 ありがとうございます。

こういうケースを広報紙か何かに載せると、私も私もと、寄附する人が多く出てくるのではないかと、小菅評議員の意見はそういうことだと思っておりますけれども。

○小菅評議員 ぜひ、そうしていただければと思います。

○高橋議長 ということだそうです。ほかにいかがでしょうか。

よろしいですか、この件につきましては。

それでは、議案第19号の平成27年度事業計画及び収支予算の補正について原案どおり了承することについてご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○高橋議長 異議なしということでございますので、議案第19号は了承することといたします。

その他何か全体的にご意見がございますか。

前回の評議員会で、大和評議員が、事業ごとに見るのではなくて、もう少し横割りで見た事業報告みたいなのができないのかという話がありました。あれはどうなりましたか。

○高橋管理担当事務局次長 現在の定款事業別ではなくて分野ごと、例えば文化センター、コズミックセンターで行っている事業が一体的に見えるようにするべきではないかといったご指摘をいただいたところでございます。これにつきましては、引き続き、現在の事業の分類をしていくことが必要かと思っておりますが、一方で、建物ごとの事業、施設ごとの事業であるとか分野ごとの事業を一体的に見えるよう、次回の来年度の予算等をお諮りする際に、資料を作成しまして、ご説明できるように準備をしたいと考えております。

○高橋議長 よろしいでしょうか。

事業一般にご異議ございませんか。よろしいですか。

これをもちまして閉会させていただきたいと思えます。以上で本日出された議案は全て終了いたしました。

ありがとうございました。

<以下、報告事項は省略>